

青森県保健協力員会等連絡協議会

令和6年度総会並びに研修会

5月30日、青森県保健協力員会等連絡協議会令和6年度総会並びに研修会がリンクモア平安閣市民ホールで開催され、保健協力員や市町村関係者など487名が参加した。

主催者挨拶で小笠原チヨ会長（青森市浪岡地区）は、日頃の活動に対する関係各位の協力を感謝の意を表するとともに、今年度は「保健協力

員に改めて健康づくりの担い手としての役割について理解を深めていただくため、先般策定された『第三次青森県健康増進計画』等を踏まえ『青森県保健協力員ハンドブック』の内容を更新し、皆様と一緒に県民の健康づくりを進めていきたい」と述べた。

続いて、宮下宗一郎青森県知事と新井山洋子青森県在宅保健師の会会長の祝辞後、議案審議に入り、上程された4件の議案は全て原案どおり可決承認され、県統一活動スローガンを掲げて活動することを確認し、総会は終了した。

総会の様子



宮下宗一郎青森県知事

県統一活動目標とスローガン

①活動目標：健（検）診受診率アップ
スローガン：「あなたの声かけて 新たに健（検）診受診者を3人増やそう！」

②活動目標：組織強化を図り、保健協力員等の活動を活性化させる。
スローガン：「仲間を増やして健やか力をアップしよう！」



在宅保健師の会 新井山洋子会長

地域に根差した
健康づくり活動

総会に引き続き行われた研修会では、大間町保健協力会の佐藤恵美子会長と弘前市健康づくりサポーター連絡協議会の成田津江会長から、それぞれ活動発表をいただいた。

大間町では、町健康づくり宣言から1年後の平成27年度に肥満予防のために行っていった「健康劇『赤ずき



活動発表者のお二人

左から佐藤恵美子氏（大間町） 成田津江氏（弘前市）



座長の中路重之氏

んちゃん、気をつけて』」を会員と町保健師とで紙人形劇にリメイクしたものを、動画で披露された。紙人形劇での披露は今回が初めてであったが「これからは色々な所で活用していきたい」と述べられた。

また、弘前市では健康づくりサポーターの活動として、地区子どもまつりでの減塩PR活動など市内25地区での健康づくり活動のほか、毎年開催される市民協働交流まつりでの血管年齢測定や特定健診、がん検診の受診勧奨など、工夫を凝らした様々な活動の紹介があった。

地域に根差した健康づくり活動を通して市民の健康意識の向上



説明者の金澤孝彦氏

と、特定健診・がん検診の受診率向上に繋げたいと意気込みが語られた。

座長を務めた弘前大学大学院医学研究科社会医学講座の中路重之特任教授は「それぞれの地域で、特徴のある活動がたくさん実施されている。

今後も青森県の健康づくりのために我々と一緒に頑張っていたきたい」と激励した。

『第三次青森県健康増進計画（歯・口腔の健康）』

続いて、青森県口腔保健支援センターの金澤孝彦副参事から、今年度より取組が始まった『第三次青森県健康増進計画（歯・口腔の

健康）の推進』について説明いただいた。

計画の概要のほか、歯・口腔の健康に関連する指標とその現状について説明し「歯・口腔の健康は『食べる』『話す』のみならず社会的・精神的な健康や生活の質に大きな影響を与えるため、健康づくりのリーダーである皆様には地域住民の歯や口の健康づくりにも協力いただきたい」と呼びかけた。

健口で健康を維持するために

最後に、弘前大学大学院医学研究科歯科口腔外科学講座の小林恒教授から「お口の病気が全身の健康に与える影響」について講演いただいた。

同氏は「歯周病は動脈硬化・呼吸器疾患・心臓病などに影響を与え健康な人でもなる疾患であり、45歳以上の40%以上が罹患している。

メタボリックシンドロームや糖尿病などの生活習慣病を引き起こす体内での慢性炎症の原因は、肥満と歯周炎とされている。

また、歯の本数が減ったり噛む



講師の小林恒氏

力が弱まることで認知症に繋がったり、舌圧（飲み込む力）が弱まることで誤嚥性肺炎につながるなど、口腔の環境が様々な疾患に影響を与える」と述べた。

最後に「顎骨壊死予防のほか、美味しいものを美味しく食べるためにも、かかりつけ歯科をつくって定期的に通院し、口腔をきれいに保つことが健口で健康を維持するために重要である」と語った。

参加者からは「口の健康が体や認知機能に与える影響について分かりやすく学ぶことができた」「3〜4か月に一度、歯科クリニックに通っているが改めて口腔ケアの大切さがよく分かった」などの感想が寄せられた。